



子どももたまたに、 たたくさんののちに、 笑顔。

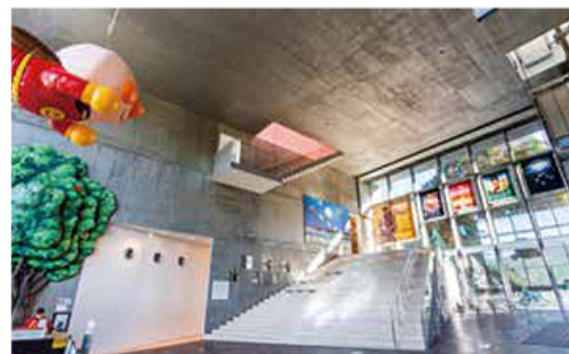
身近な
暮らしの
バリバリ
情報誌
通信

BARIBARI
TSUSHIN

2021
AUTUMN
VOL.113

発行 四国ガス燃料
愛媛県今治市中寺226-1 TEL:0898-32-0725
<https://www.shikoku-gasnen.co.jp/>

人生は 喜ばせごっこ (高知県香美市)



香美市立やなせたかし記念館アンパンマンミュージアム
香北町出身のやなせたかしの作品を紹介する、子どもから大人まで楽しめる美術館施設。この美術館のために描き下ろした貴重な原画など、ここでしか見ることができない作品が満載。

営業時間 通常期間
9:30 ~ 17:00(最終入館 16:30)
休館日 火曜日(火曜日が祝日の場合は、その翌日)
12月24日~1月7日の期間中は無休
料金 やなせたかし記念館 共通券
大人800円 中学生500円 小人(3才以上)300円 3才未満無料
詩とメルヘン絵本館 単独券
大人450円 中学生200円 小人(3才以上)100円 3才未満無料

© やなせたかし © やなせたかし/フレーベル館・TMS・NTV

アンパンマンの生みの親であるやなせたかしの故郷、高知県香美市に建つサイコロのような白い箱型の建築物。山間の田舎にこそあってオシャレでシブな建物を、というやなせ氏の要望によりつくられた、ここ「香美市立やなせたかし記念館アンパンマンミュージアム」は、優しさ溢れる「やなせワールド」を堪能できる夢と冒険の美術館だ。

最大の特徴は、順路がないこと。好きなところを自分の見たい順番に自由に歩き回ることができる。子どもたちが人生で初めて訪れる美術館「ファーストミュージアム」として親しめるよう、また大人にも肩肘張らず楽しんでもらえるように、という思いがここに込められている。

アンパンマンの町を再現した巨大ジオラマ、パン工場やバイキン城のある「アンパンマンワールド」、やなせ氏がこのミュージアムのために描きおろしたタブロー画を展示する「やなせたかしギャラリー」など、気の向くまま歩き回ってその世界観を堪能してみよう。館内で



たたかうアンパンマン像
開館15周年を記念して建てられたアンパンマンを決めるアンパンマン像。



ジャイアントだんだん像
2008年に完成した「ジャイアントだんだん」像は全長約7メートルの超ビックサイズで迫力満点!



やなせたかし記念館 収蔵庫
やなせたかしの膨大な数の作品や資料を保管。外壁いっぱい描かれたアンパンマン(正面)、ばいきんまん(裏面)はそれぞれ20万枚を超える特注の色タイルで再現されている。



アンパンマンワールド
アンパンマンたちが暮らす町をミニチュアで再現したジオラマを中心に、アニメ「それいけ!アンパンマン」の世界が広がる。アンパンマンの顔を焼くかまど、バイキン城にはめぐりの操縦席など、楽しく遊べるしつけがいっぱい。

はあちこちでアンパンマンと出会える仕掛けがあり、ちょっと見つけにくい「かくれアンパンマン」を発見するのも楽しい。立体的な迷路のような建物の中、大人も子どもも一緒にゲーム感覚で楽しめることも魅力のひとつだろう。

今や絶大な人気を誇るアンパンマン。そのはじまりは一九七三年に発表された絵本だった。発表当初、大人たちの間では「自分の顔を食べさせるなんてグロテスク」など、評判は良くなかったが、幼稚園や保育所の子どもたちにも人気が広がり、その後、多数の絵本が出版された。子どもたちの間での人気を受けて、一九八八年にはアニメ化され、その人気は揺るぎないものとなった。

二十二歳で応召して戦地に赴いたやなせ氏。戦後は商業デザイナーとして

働き、その後フリーの漫画家として独立したが大きなヒット作に恵まれず、雑誌の編集や舞台演出など様々な仕事をこなしてきた。



龍河洞
日本三大鍾乳洞の1つに数えられ、1934年に国の天然記念物および国の史跡に指定された。2007年には日本の地質百選に選定されている。

営業時間 3月1日～11月末日8:30～17:00(最終入洞時間)
12月1日～2月末日8:30～16:30(最終入洞時間)
営業日 年中無休
料金 観光コース 大人(高校生以上)1,200円 中学生700円
小学生550円
入洞料金プラス税込1,500円および冒険洞管理費200円 ※事前要予約
つなぎ服・長靴レンタル料(税込1,000円)がおすすめ。
ヘルメット、ヘッドライトは無料貸出

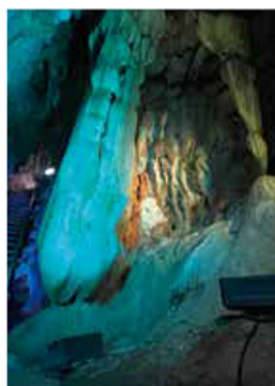


香美市までの交通【自動車で】

徳島ICから 徳島自動車道～高知自動車道経由…約2時間10分
高松中央ICから 高松自動車道～高知自動車道経由…約2時間00分
松山ICから 松山自動車道～高知自動車道経由…約3時間20分



神の壺
約2000年前、弥生時代に洞窟に居住していた人々が使っていたといわれる土器が、永い年月をかけて洞窟と一体化してできた神の壺。



天降石
15万年の歳月をかけて水が作りだした、高さ11mにもなる石の芸術品。龍河洞のハイライトとも言える場所。

香美市立やなせたかし記念館から北東に約三キロ、朴ノ木にある「やなせたかし朴ノ木公園」は氏の実家跡地に整備されている墓地公園で、直筆の詩碑の下にやなせ夫妻の遺骨が納められている。詩碑の左側にはアンパンマン、

総延長約四キロのうち、約一キロが「観光コース」となっているが、さらに洞窟を楽しみたい人には、冒険用の装備で道なき道を進む「冒険コース」も用意されている。
観光コースでは、六つのゾーンごとにテーマがあり、じっくりと巡りながら龍河洞の物語を知ることができる。幻

若い頃の戦争経験が作風に影響を与えたともいわれるが、長い下積み時代を経て遅咲きのヒットを経験した彼の作品から滲むのは、苦しんでいる人、悩んでいる人に向けた優しいまなざしだ。「人生は喜ばせごっこ」という自身の言葉通り、多くの創作活動と生き方を通して、生きることの喜びを伝え、平和の尊さを物語る。美しい自然に囲まれた楽しくてちょっと不思議な美術館は、私たちが生きていく中で大切なことを教えてくれる温かい場所だった。

続いて向かったのが、国指定史蹟天然記念物「龍河洞」。雨水が億七千五百万年もの永い歳月をかけてつくりだした石灰岩の鍾乳洞だ。二〇一九年に照明・音楽・映像を駆使した「新・龍河洞」にリニューアル。今年八月には開洞九十周年を迎え、香美市の観光名所として再び注目されている。

鍾乳洞は気が遠くなるような長い時を繋いで現在に至る。圧倒的な自然を目の前にすると、人間の一生も悠久の時の流れのほんの瞬きでしかないと感じられる。是非、「新・龍河洞」で、生命の息吹を肌で感じる幻想的な世界観と非日常を味わってみてほしい。



詩とメルヘン絵本館

アンパンマンミュージアムに隣接するギャラリー。雑誌「詩とメルヘン」の創刊以来、やなせたかしが手掛けてきた表紙のイラストやカットを一堂に展示。



やなせたかし朴ノ木公園

やなせたかし直筆の詩碑と墓碑が、アンパンマンの仲間たちの小さな石像に囲まれた墓地公園。



ミュージアムショップ

1Fにあるミュージアムショップでは、原画の息づかいが聞こえてきそうなオリジナルグッズを多数取り扱っている。

© やなせたかし © やなせたかし/フレーベル館・TMS・NTV